



東急線を走っていたステンレス製の車両

インドネシア

JR、私鉄、地下鉄など、日本でもおなじみのさまざまな車両が数多く走るジャカルタ。中には、行き先表示が日本語のまま運行しているものも。



「Kereta Khusus Wanita(女性専用列車)」と書かれた車両



東京メトロの車両が、ジャカルタの人たちを運ぶ。行き先の表示は日本語のままになっている



昔のままの塗装で走る元丸ノ内線車両。行き先はスペイン語で表示されている

アルゼンチン

1913年開業のブエノスアイレスの地下鉄は、実は東京で最初の地下鉄・銀座線のお手本ともなった。今では、銀座線の次に古い丸ノ内線の車両が現地の地下鉄を走っていて、アルゼンチンの知恵が里帰りした形だ。



内装も全て東京を走っていたときのままで



車両の日本語表示も残っている

タイ

日本では全て引退した寝台列車「ブルートレイン」が今も走っているのがタイ国鉄だ。それ以外にも寝台列車が国内の都市を結んでいる。



日本製の寝台列車もある。こちらは東急車輛が作ったもの



日本では昨年に廃止されたブルートレインが、タイでは今も現役だ(撮影:白川淳)



ディーゼル車両の国鉄キハ58系。非電化の路線には、こうしたディーゼルエンジンで走る気動車が欠かせない(撮影:白川淳)

ミャンマー

市場開放が始まり、急速な経済発展の道を歩むミャンマー。非電化の路線も多いため、日本のディーゼル機関車DD51などが活躍している。



朝ドラで名をかせた「あまちゃん列車」もヤンゴンの街を走っている



伊勢鉄道の車両は、今は特別車両として重宝されている



日本製車両を入れ替える際に使われる小型機関車



JRのブルートレインを輸入し、マニラ〜ナガ間約400キロを一晚で結んだ、フィリピンの「ピコール急行」(撮影:白川淳)

フィリピン

フィリピン国鉄の路線は非電化のため、日本から送られた列車はどれも機関車や気動車が動かしている。



JR東日本の203系は、現在、フィリピンの主力車両として活躍している(撮影:白川淳)



マニラのトゥトゥバン駅に到着した、JR東日本のキハ52形気動車(撮影:白川淳)

世界で活躍！ 日本の列車

豪華寝台列車の登場や、電子看板の導入など、進化し続けている日本の鉄道。その裏でひっそりと役割を終えた列車は、実は海を越えて今も活躍している。現地の人々を乗せて走る日本の列車を、世界各地から集めた。

